

事業評価調書〔途中評価〕（令和5年度）

1. 施設の名称等

施設名称	長崎県美術館
所在地	長崎市出島町2番1号

事業所管	文化観光国際部	文化振興・世界遺産課
課（室）長名	峰松	美津子

総合計画上の位置づけ	基本戦略	3-2	地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る
	施策	5	特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化
	事業群	①	歴史や文化芸術による地域活性化

2. 施設の概要

設置年月日	平成 17 年 4 月 23 日						
設置法令等	長崎県美術館条例（平成15年12月22日長崎県条例第61号）						
設置目的	地域の活性化及び芸術文化活動の拠点として、優れた美術作品の鑑賞及び学習の機会を提供するとともに、創作活動及び作品発表等の支援を通じて、生涯学習に対応した文化的環境の整備を図り、もって新たな長崎県の文化の創出に寄与する。						
利用対象者等	主な利用対象者：県民及び県外客 開館時間：午前10時～午後8時、休館日：第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）						
施設内容	敷地面積9,914㎡、建築面積5,209㎡、延べ面積10,092㎡ 企画展示室、常設展示室1～5、運河ギャラリー、県民ギャラリー、ホール(150席)、講座室、アトリエ、ミュージアムショップ、カフェ、情報コーナー						
施設の利用料金体系	〔常設展利用料金〕						
		一般	大学生	小中高生	70歳以上	備考	
	普通観覧料金	420円	310円	210円	310円		
	団体割引料金	340円	250円	170円	250円	15人以上	
	※県内在住の小中学生は無料 ※障害者手帳、特定医療費（指定難病）医療受給者証等の提示者及び介護者1名は無料 ※学校行事の一環として県内小・中・高・特別支援学校生が利用する場合は、引率の教員を含め無料						
	〔企画展利用料金〕 展覧会により異なる						
	〔貸館利用料金〕						
	名称	面積	利用料金	備考			
	県民ギャラリー	940㎡	34,390円/日				
	運河ギャラリー	170㎡	3,030円/日	※入場料を徴収する場合は、左記利用料金の1.3倍			
	ホール	210㎡	6,810円/回	※入場料を徴収せず、かつ公的機関や教育目的での利用の場合は、3割～10割の減免措置あり			
	講座室	70㎡	2,720円/回				
	運河劇場	330㎡	1,040円/回				
	屋上庭園	1,200㎡	6,390円/回				
類似施設の設置状況	施設名		岩手県立美術館	山梨県立美術館	大分県立美術館		
	入館料	一般	450円	520円	300円		
		大学生	340円	220円	200円		
		高校生以下	無料	無料	200円(中学生以下無料)		
	利用者数（R4実績）		54,189人	291,539人	521,529人		
	指定管理者制度導入		平成18年4月1日	平成21年4月1日	平成25年10月1日		
	管理運営負担金（R5予算）		403,906千円	501,954千円	314,162千円		
	延床面積		13,000㎡	12,059㎡	13,677㎡		
指定管理形態		管理（学芸部門は委託）	管理運営	管理運営			
県 予 算	区 分 (単位：千円)		令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (計画)
	財源	国 庫		10,000	5,000	12,398	
		その他（諸収入、繰入金）	351,032	353,842	353,606	352,216	358,655
		一般財源	10,000	11,065	10,000	10,000	10,000
	事業費＜A＞		361,032	374,907	368,606	374,614	368,655
	内 訳	管理運営負担金	345,202	348,369	348,370	348,370	350,000
		その他（特別経費負担金等）	15,830	26,538	20,236	26,244	18,655
		人件費＜B＞	15,908	15,648	15,580	15,306	15,432
	合計＜C=A+B＞		376,940	390,555	384,186	389,920	384,087
	単位あたりコスト		1	3	2	2	2
(説明) 「当事業による入館者1人あたりの運営費用」=C÷(入館者数)							

3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	《所在地》	長崎市出島町2番1号			
	《名称》	公益財団法人長崎ミュージアム振興財団			
	《代表者氏名》	理事長 中牟田 新一			
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 ~ 令和 9 年 3 月 31 日				
業 務	①施設（設備）の維持・修繕等 ②美術館の運営（展示、調査研究活動、生涯学習・教育プログラム、国内外の美術館との連携） ③美術館のマネジメント（集客、営業、PR、イベント企画、ボランティアの活用等） ④ミュージアムショップ、カフェの経営				
利用料金制	■ 導入済	未導入	選定方法	■ 公募	非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	① 本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数		(目標値の根拠)		<令和5年度実施における変更点>					
	② 来館者満足度（5段階）		①博物館事業での実施分も含め、5年間（R3～R7）で全市町での実施を目指す。							
	③ 県民ギャラリー稼働率		②アンケート5段階評価における年間平均において、4.0以上の満足度を目指す。							
④ 美術館入館者数（参考値）		③90%以上の稼働率を目指す。								
実 績			令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (計画)			
		単位								
①	a	目標値	市町	5	5	5	3	3		
	b	実績値	市町	5	5	11	1			
	c	達成率b/a	%	100	100	220	33			
②	a	目標値	点	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0		
	b	実績値	点	4.4	4.4	4.4	4.3			
	c	達成率b/a	%	110	110	110	107			
③	a	目標値	%	90	90	90	90	90		
	b	実績値	%	98	76	69	93			
	c	達成率b/a	%	108	84	76	103			
④	a	目標値	—	—	—	—	—	—		
	b	実績値	人	384,323	112,393	172,980	212,367			
	c	達成率b/a	%	—	—	—	—	—		
指定管理者の収支状況		事業計画 (R4)		令和元年度 (実績)	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (計画)		
		(千円)	実績-計画							
利用料金		47,826	1,062	87,720	21,334	30,435	48,888	62,279		
県負担金		348,370	0	345,202	348,369	348,370	348,370	350,000		
その他		79,744	31,890	287,051	82,191	96,738	111,634	124,748		
収入計a		475,940	32,952	719,973	451,894	475,543	508,892	537,027		
支出b		479,946	23,347	716,414	437,341	459,542	503,293	534,936		
うち人件費		137,580	3,678	134,930	129,403	132,107	141,258	143,433		
収支a-b		▲ 4,006	9,605	3,559	14,553	16,001	5,599	2,091		
配置職員数		常勤 25	0	常勤 25	常勤 25	常勤 25	常勤 25	常勤 25	常勤 25	
(人)		非常勤 0	0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	非常勤 0	

※この収支は指定管理者が行う管理運営に係るものであり、この他に県が直接負担したものとしては、「2. 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

5. 令和4年度事業の実施状況・実績の検証

管理運営の状況	計 画	実 績
	<p><指定管理者実施分> ①美術館の管理運営業務</p> <p>②調査研究業務</p> <p>③他の美術館、博物館との連携事業</p> <p>④生涯学習、教育普及事業</p> <p>⑤アートボランティア事業</p> <p>⑥広報マーケティング事業</p> <p>(利用料金、その他自主事業)</p> <p>⑦常設展事業</p> <p>⑧企画展事業</p>	<p><指定管理者実施分> ①施設の清掃、警備、機器運転業務、各種保守点検等の業務は、協定書に基づき適正に実施された。</p> <p>②収蔵作品に関する調査研究、保存修復事業、展覧会の企画・開催、生涯学習事業、美術情報に関する調査研究、須磨コレクションに関する調査研究について、協定書に基づき進めた。</p> <p>③令和4年度時点で釜山市立美術館の事業担当者が1名となったこと、また、令和5年度から6年度にかけて釜山市立美術館が改修工事及び職員の再編成を行うことから、同館の申し出を受けて連携事業を一旦保留とした。</p> <p>④学校教育との連携事業であるスクールプログラムを実施し、7,490人が参加した。 移動美術館を実施し、遠隔地の方々へ美術作品に親しむ機会を提供した。(大村市、壱岐市) TV会議システムやロボットを使った交流プログラムとして、遠隔地の認定こども園の児童や小学生と遠隔授業を実施した。(長崎市、壱岐市、南島原市)</p> <p>⑤86名のボランティアが、チャリティーバナーバッグ製作・販売活動や生涯学習事業、広報、館運営などの美術館事業全般にわたるボランティア活動を実施した。</p> <p>⑥展覧会、教育普及事業を中心に広報活動を展開。自主媒体や民間広告媒体による情報発信、マスコミ誘致、取材対応などで美術館のPRと来館促進に取り組んだ。 HPへのアクセス数は、709,590件(前年度比105.0%)であった。企画展へのアクセス数が高く、次にコレクション展、イベントの順に多かった。企画展では特にピカソ展のアクセス数が多かった。 また、メールマガジンの配信やSNS、YouTubeの活用など、美術館に興味を持つ人へ定期的に情報発信を行った。</p> <p>(利用料金、その他自主事業)</p> <p>⑦収蔵作品の展示に加え、開館以来継続してきた長崎ゆかりの美術を深く掘り下げ紹介する小企画展として、長崎市出身の作家である前田 齊の没後1年の展覧会を開催したほか、教会のある風景、本県名誉県民 松尾 敏男氏と写真家・奈良原 一高の展示など、長崎ゆかりの多様な美術を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。 未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、入館者数は43,470人(館計画比144.9%)となった。</p> <p>⑧未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、開館時間の短縮や臨時休館を行うことなく、計画していた企画展は予定どおり開催することができた。小学校の国語の教科書に採用されている「がまくんとかえるくん」で知られる絵本作家アーノルド・ローベルの日本初の展覧会である「アーノルド・ローベル展」や、20世紀美術最大の巨匠パブロ・ピカソの初期から晩年までの版画を中心とした「ピカソ展」など、魅力あふれる企画展の開催に努めた。 入館者数は71,900人(館計画比94.6%)となった。</p>

<p>⑨施設貸出事業</p> <p>⑩ショップ、カフェ事業</p> <p><県実施分> ①施設や備品の修繕業務等</p>	<p>⑨未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、ホール・講座室等の利用キャンセルは8件にとどまり、県民ギャラリーにおいては利用キャンセルもなく、全ての展覧会を開催することができた。 県民ギャラリーの利用は57団体、利用日数316日（稼働率93%）であった。県民ギャラリー等の利用者数は106,676人であり、全入館者数の50.2%を占めている。</p> <p>⑩ショップは企画展に連動して開設した特設ショップの販売が売上増に寄与し、1,337千円の黒字となった。カフェは企画展に関係したメニューの開発や、長崎県内の食材にこだわったメニューやテイクアウト販売に取り組み、客数及び売上げともに増となったもののコストを吸収するまでには至らず、921千円の赤字となった。</p> <p><県実施分> ①空調熱源システムの大規模改修工事（令和3年度からの2カ年計画）を実施したほか、照明制御盤や企画展示室駆動壁などの各種修繕を実施した。</p>
--	---

検 証

○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症に対し、社会経済活動を維持しながら感染拡大防止を図っていく状況下で、開館時間の短縮や臨時休館を行うことなく通常開館することができた。年間入館者数は212,367人と令和元年度比で約5割程度にとどまったものの、過去最も少ない入館者数であった令和2年度の112,393人、昨年度の172,980人を上回り、回復傾向にある。また、来館者の満足度は五段階評価で4.3となり、目標の4.0を上回ることができた。

○常設展事業は、収蔵作品の展示に加え、開館以来継続してきた長崎ゆかりの美術を深く掘り下げ紹介する小企画展として、長崎市出身の作家である前田 齊の没後1年の展覧会を開催したほか、教会のある風景、本県名誉県民 松尾 敏男氏と写真家・奈良原 一高の展示など、長崎ゆかりの多様な美術を紹介した。また、収蔵名品展や須磨コレクション、スペイン近現代美術などを工夫を加えながら展示し、収蔵作品の新たな魅力発信に努めた。未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、入館者数は43,470人（館計画比144.9%）となり、昨年度の27,783人を上回り、回復傾向にある。

○計画していた企画展は予定どおり開催することができた。小学校の国語の教科書に採用されている「がまくんとかえるくん」で知られる絵本作家アーノルド・ローベルの日本初の展覧会である「アーノルド・ローベル展」や、20世紀美術最大の巨匠パブロ・ピカソの初期から晩年までの版画を中心とした「ピカソ展」など、魅力あふれる企画展の開催に努めた。入館者数は71,900人（館計画比94.6%）となり、昨年度の82,241人を下回ったが、これは企画展の開催数が前年度と比べ1本少なかったことが大きいと考えられる。

○成果指標の「本展・移動展や遠隔授業等の実施市町数」については、博物館事業での実施分も含め、5年間（R3～R7）で全市町での実施を目指し、昨年度未実施の3市町へ実施することとしていたが、実施済市町の学校から出張授業の再実施希望があり、それらに対応したため、1市町の実施にとどまった。

○未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、ホール・講座室等の利用キャンセルは8件にとどまり、県民ギャラリーにおいては利用キャンセルもなく、全ての展覧会を開催することができた。県民ギャラリーの稼働率は93%と目標の90%を上回り、県民の文化活動の場として広く活用されている。

○経営面では、引き続き経費縮減に取り組む中で、燃料費高騰に伴い光熱費が大きく増加したため、県から光熱費高騰に伴う支援を行ったほか、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用調整助成金の助成制度や国の文化芸術に係る補助金も併せて活用した結果、5,599千円の黒字計上となった。

収支計画・実績

<指定管理者実施分>

(単位：千円)

主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等
収入 a	475,940	508,892	
負担金	348,370	348,370	
利用料金	47,826	48,888	
うち常設展収入	2,796	5,119	計画を上回る入館者数増に伴う収入増
うち企画展収入	39,030	33,750	「テクテクテクネー展」の入館者数が計画より伸びなかったことによる収入減
その他	79,744	111,634	
うちショップ収入	50,194	56,693	企画展の特設ショップ販売による売上増
うちカフェ収入	8,125	12,008	長崎県内食材にこだわったメニューやテイクアウト販売による売上増
支出 b	479,946	503,293	
人件費、事務費	137,580	141,258	通常開館できたことによる業務費用増
施設管理事務費	172,677	182,842	施設の劣化に伴う維持管理費増
利用料金	72,728	73,133	
うち常設展支出	18,508	18,317	
うち企画展支出	54,220	54,816	
その他	96,961	106,060	
うちショップ支出	48,180	55,692	企画展の特設ショップを設けたことによる業務費用増
うちカフェ支出	8,656	14,784	企画展に関係したメニューの開発や食材調達による業務費用増
収支a-b	△ 4,006	5,599	

収支の状況

検 証

【収入の部】 計画比32,952千円の増

○常設展・企画展観覧料収入は、未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、開館時間の短縮や臨時休館を行うことなく、計画していた企画展は予定どおり開催することができたが、「テクテクテクネー展」の入館者数が計画より伸びなかったことによる収入減が響き、計画比2,957千円の減となったものの、県民ギャラリー等の施設貸出の収入増が寄与し、利用料金事業全体としては計画比1,062千円の増となった。
○ショップ・カフェ収入について、ショップは企画展に連動して開設した特設ショップの販売が売上増に寄与し、カフェは長崎県内の食材にこだわったメニューやテイクアウト販売を行い客数も伸びた結果、計画比10,382千円の増となった。

【支出の部】 計画比23,347千円の増

○常設展・企画展事業は、未だ新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、開館時間の短縮や臨時休館を行うことなく通常開館することができたことから、ほぼ計画どおりに業務費が執行できた。
○ショップ・カフェ事業は、ショップは企画展に連動して開設した特設ショップの商品仕入れ等により、計画比7,512千円の増となり、カフェは企画展に関係したメニュー開発や食材調達等に係る経費増により、計画比6,128千円の増となった。

新型コロナウイルス感染症に対し、社会経済活動を維持しながら感染拡大防止を図っていく状況下で、開館時間の短縮や臨時休館を行うことなく通常開館することができた。引き続き経費縮減に取り組む中で、燃料費高騰に伴い光熱費が大きく増加したため、県から光熱費高騰に伴う支援を行ったほか、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用調整助成金の助成制度や国の文化芸術に係る補助金も併せて活用したことにより、収支は当初計画△4,006千円に対し5,599千円の黒字計上となった。

指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価

B

(説明)

○生涯学習・教育普及事業では、学校との連携事業であるスクールプログラムの実施、移動美術館の開催、遠隔授業の実施、企画展に関連したワークショップの実施など、幅広い年齢層へ学習の機会を提供した。
○新型コロナウイルス感染症に対し、社会経済活動を維持しながら感染拡大防止を図っていく状況下で、年間入館者数は212,367人と令和元年度比で約5割程度にとどまったものの、過去最も少ない入館者数であった令和2年度の112,393人、昨年度の172,980人を上回り、回復傾向にある。来館者の満足度は86%と目標の80%を上回った。
○県民ギャラリーの稼働率は93%と目標の90%を上回った。県民ギャラリー等の利用者数は106,676人と全入館者数の50.2%を占めており、県民の文化活動の場として広く活用されている。
○経営面では、引き続き経費縮減に取り組む中、燃料費高騰に伴い光熱費が大きく増加したため、県から光熱費高騰に伴う支援を行ったほか、新型コロナウイルス感染症の影響による雇用調整助成金の助成制度や国の文化芸術に係る補助金も併せて活用した結果、年間収支は黒字を計上した。

6. 令和5年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容
<p>○令和5年度はこれまでの新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、徐々にコロナ禍前の状態に戻つつあることから、国立西洋美術館と長崎県美術館所蔵のスペイン美術コレクションを中心とした「スペイン版画展」、80年以上も世界中で愛され続けている「トムとジェリー」展など多様なジャンルの企画展を開催し、多くの県民のニーズに応えるとともに、令和5年秋の「JR長崎駅ビル」の開業を見据え、新たな来館者層の発掘を図り、まちの賑わいづくりや交流人口の拡大に寄与していく。財務面についても引き続き運営費等の縮減や、積極的な広報・販促活動を実施し、収入の確保に努めていく。</p> <p>○収益事業であるショップ・カフェ事業は、ショップについては季節やイベント、展覧会毎のイメージや客層に合わせた商品ラインナップや店頭ディスプレイに力を入れ、来館者の購買意欲を高めるとともに、SNS等を活用した積極的な情報発信を行い、新規顧客の獲得を図っていく。カフェについては座席数をコロナ禍前の状態に戻すことで利用率増加を図るとともに、観覧券とのセット券の販売、テイクアウト可能な食事やスイーツメニューを増やし提供することで収支の黒字化を図っていく。</p> <p>○国・民間団体等の各種助成金の積極的な活用及びマスコミと連携して新たな協賛金を獲得するとともに、県内外の新規の法人会員獲得を図ることで、引き続き新たな自主財源の確保を目指す。</p>

7. 令和5年度事業の評価

※評価区分（a：行われている、b：一部行われていない、c：行われていない）

視点	評価	判定理由
<p>・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。</p>	a	<p>・新型コロナウイルス感染症に対し、社会経済活動を維持しながら引き続き感染拡大防止を図っていく状況下で、展覧会の開催や各種イベントの実施等、事業規模をコロナ禍前の状態に徐々に戻しながら、県民に芸術に触れる機会を提供している。</p> <p>・県民の文化・芸術活動の充実に貢献するため、県民ギャラリーやホール等の貸し施設の利用を促進している。</p>
<p>・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。</p>	a	<p>・利用料金の減免について明確な基準を作成し、ホームページで公開することによって、住民の公平かつ平等な利用を確保している。</p> <p>・遠隔地の住民の方にも、美術館の作品を鑑賞する機会を提供するため、年2回の移動美術館を予定している。</p>
<p>指定管理者の行う管理運営等に関する評価</p> <p>・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。</p>	a	<p>・来館者アンケート調査によって、利用者の満足度を把握するとともに、利用者の声を館の運営に活用することで、サービスを向上させている。</p> <p>・アートボランティアの新規募集及び研修を行い、サービスの質的向上を図っている。</p>
<p>・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。</p>	a	<p>施設設備の保守点検、清掃等の実施については、協定書に基づき適切な管理が行われ、施設の機能は適正に維持されている。</p>
<p>・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。</p>	a	<p>・企画展において、集客力のある魅力的な大型展を計画している。また、ショップにおいて、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録5周年を記念した品揃えの充実化に努めている。</p> <p>・カフェにおいて、座席数をコロナ禍前の状態に戻し利用率増加を図るとともに、テイクアウト可能な食事やスイーツメニューを提供し、収支の黒字化を図っている。</p> <p>・マスコミと連携した新たな協賛金の獲得や県内外の新規の法人会員獲得を図り、自主財源の確保に取り組んでいる。</p>
<p>・経費節減に向けた取り組みが行われているか。</p>	a	<p>光熱費高騰の影響が生じている中で、全館的に事務的経費や光熱水費の節減に取り組んでいる。</p>
<p>（その他の観点）</p>		

	視点	評価	理由
施設の 在り方 について の評価	・ 県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 薄れていない <input type="checkbox"/> b. 一部薄れている <input type="checkbox"/> c. 薄れている	入館者アンケートでは、入館者に占める県民の割合が令和3年度は1,246人中66%、令和4年度は1,882人中52%と過半数以上を占めており、必要性は薄れていない。
	・ 事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適応しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 適応している <input type="checkbox"/> b. 一部適応していない <input type="checkbox"/> c. 適応していない	地域活性化の核となり、文化を活かしたまちづくりの拠点となっている。
	・ 市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 適当（可能）でない <input type="checkbox"/> b. 一部適当（可能）でない <input type="checkbox"/> c. 適当（可能）である	県が政策的に設置した美術館であるため、市町では県全体の施策が実現できず、民間移譲では文化の継続性が保持できない。
効率性	・ 県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 得られている <input type="checkbox"/> b. 一部得られている <input type="checkbox"/> c. 得られていない	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中で、入館者数は過去最も少ない入館者数であった令和2年度から年を追って回復傾向にあり、これまでの入館者数実績は全国の都道府県立美術館の中でも高い入館者数を維持している。
	・ 指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. 代えられない <input type="checkbox"/> b. 一部代えられない <input type="checkbox"/> c. 代えられる	直営は人件費を中心に県負担が大幅に増加するため困難だが、他の制度も含め指定管理者制度との比較検討を行う余地はある。
有効性	・ 指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> a. なっている <input type="checkbox"/> b. 一部なっていない <input type="checkbox"/> c. なっていない	一部成果指標の未達成があるものの、適正な施設管理を行い、また、生涯学習事業や教育普及事業にも注力しており、幼児から高齢者に至るまで、あらゆる世代の活動の場、学習の場となっている。
	・ 事業効果をさらに上げる余地はないか。	<input type="checkbox"/> a. 余地はない <input checked="" type="checkbox"/> b. 一部余地がある <input type="checkbox"/> c. 余地がある	県の芸術文化活動の拠点施設として、すべての県民が優れた文化芸術に触れる機会を提供できるよう、移動展や遠隔授業といった出張事業を今後も計画的に開催する。
(その他の観点)			

8. 令和6年度事業の実施に向けた方向性

区分	現状維持	改善	移管	廃止
(説明：令和6年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容)				
<p>○スペイン美術を標榜する美術館として、ヨーロッパの近現代美術を本格的に紹介する大型企画展や、令和6年度の長崎スタジアムシティの開業による県外からの観光客にも足を運んでもらえるような魅力的な展覧会を開催し、優れた美術作品の鑑賞機会の提供や交流人口の拡大に寄与するとともに、オンライン等も駆使し、子どもから大人まで、県内どこにいても良質な文化芸術に触れることのできる機会を提供していく。</p> <p>○建設から18年以上が経過し、施設の劣化に伴う不具合が頻発しており、維持管理費の増加が予想されるため、引き続き光熱水費や事務的経費の削減に努めるとともに、予防保全型維持管理を前提として、毎日の点検及び早期の修繕にしっかりと取り組み、建物や設備機器の長寿命化を図っていく。</p> <p>○県民ギャラリーを中心とした施設貸出事業は、県民の文化活動の場として広く活用されるよう、引き続き県民の積極的な利用推進を図っていく。</p> <p>○指定管理者の経営基盤の更なる安定化のため、引き続き運営費等の縮減に取り組むとともに積極的な広報・販促活動の実施により収入の確保に努める。ショップ事業では展覧会毎のイメージや客層に合わせた商品ラインナップの充実強化を図るとともに、SNS等を活用した積極的な情報発信を行い、来館者の購買率上昇に繋げ、カフェ事業ではコスト削減に取り組みながら来館者のニーズに合ったテイクアウト可能な食事やスイーツメニューの提供、展覧会に合わせた商品の開発を行うことで収支の安定化を目指す。</p>				